

	学校教育目標	重点目標	目標達成のための手立て	評価項目	自己評価・保護者評価		学校関係者評価	改善計画
					数値	結果と課題の説明		
「体」健康・体力	「強く」心身ともに健康で、北方に逞しく生き抜く子	「やりたいわかた・たり・でき・た・つ・たのみ・う・ぞ」	①体育の授業や体力づくりの工夫改善及び指導充実 ②教育活動全体を通じて運動に慣れ親しむ指導の充実 ③必要に応じ、外部講師の協力授業を実施 ④積極的な体験活動による健康に関する指導充実 ⑤性指導、薬物乱用防止教室の充実、がんに関する出前授業活用 ⑥安全計画の改善充実 ⑦実践的な交通安全教室、避難訓練、防犯教室 ⑧安全マップを活用した登下校指導、下校後の指導徹底 ⑨安全指導体制及び連絡体制 ⑩食事の重要性や楽しさを理解させる指導充実 ⑪家庭と連携した望ましい生活習慣づくり	体力テストを含めた体力向上の取組は計画的で、児童の意欲向上を高めるものとなったか。	(学)83.3 ▼ (保)88.0 ○	□体力向上に係る取組について、意欲を高めながら継続的に取り組むことができるような工夫改善や実効性のある内容の充実を求める声がありました。 □食育について、学校での日常的な指導の充実を前提とした上で、効果的な家庭との双方向の連携の仕方について課題がありました。	・外部の人たちとの関係性がとても大切である。挨拶やコミュニケーションなどにつながっていくことになる。	☆体力チェックウィークの充実により、目標をもたせて向上を図る。
			望ましい食習慣を育成する指導の工夫は充実が図られていたか。	(学)91.7 ○ (保) —				
「知」確かな学力	「正しく」ものの観方、考え方が正しく、創造性豊かな子	「のいえる子どもの育成」	①校内研修での授業研究と連動させた課題解決 ②少人数指導及びT.T指導等の指導方法の工夫改善 ③体験的・問題解決的な学習における主体的な課題解決への指導 ④学校全体での言語環境の整備 ⑤表現・説明・話し合い・交流等の活動の関連を図る ⑥日常的な教職員相互の学び合い・高め合い ⑦家庭との連携の確立	表現・説明・話し合い・交流などの活動との関連から、各教科における言語活動の充実が図られていたか。	(学)80.6 ▼ (保) —	□校内研修との関連から、日常の授業を改善しようとする意識の高まりは見られたものの、「分かった・できた・楽しい」と児童が感じることができ授業改善は、今後も課題としていく必要があります。 □諸調査、テスト等の結果から、特に算数科における基礎学力の定着が大きな課題として見られます。 □授業の日常的な改善を前提として、個に応じた効果的な指導技術の向上を図る必要があります。	・読書活動は重要である。読解力を問われるものが大学入試選抜試験にも入り、その資質・能力を身に付けることが求められている。学校だけではなく保護者の協力も必要。 ・1～4年生では「読む・聞く」ことが重要。さらに書くことが加わるとよい。	☆算数科は学校課題としてとらえ、T.T指導の充実や学び直しを含めて、改善を図る。 ☆KPTを活用した問題解決型の研修の充実。 ☆日常的な教師の高め合いの風土を醸成し、指導力の向上を図る。
			少人数指導やTT指導等を効果的に活用しながら、個に応じた指導の充実が図られていたか。	(学)77.8 ▼ (保) —				
			基本的指導技術の向上が改善できる体制が整えられていたか。	(学)91.7 ○ (保)90.6 ○				
「徳」豊かな人間性	「朗らかに」ものの観方、考え方が正しく、創造性豊かな子	「のいえる子どもの育成」	①道徳の全体計画及び年間指導計画の実践的検証 ②「考え、議論する」道徳への転換 ③道徳の時間と特別活動の関連による具体的実践場面の設定 ④「いじめは絶対に許されない」学校風土を高める ⑤「伊達小いじめ防止基本方針」の見直しと改善 ⑥いじめへの組織的対応 ⑦積極的な地域人材及び素材の活用 ⑧外部講師とのふれあいによるコミュニケーション能力の育成 ⑨地域の教育資源活用により、ふるさとのよさに気付かせる	道徳の時間の指導充実が図られていたか。	(学)83.3 ▼ (保)88.3 ○	□道徳が教科となったことで、授業の質的転換を図り、より指導の充実を図ることが必要です。 □基本的生活習慣の定着に大きな課題が見られます。年度当初の指導徹底を始め、日常的に学校全体で取り組んでいく必要があります。 □いじめや不登校について、これからも迅速・敏感・丁寧な対応と保護者との連携が求められています。	・いじめや不登校等の指導について、学校と保護者の数値に開きがある。その差をどう埋めていくかの説明や情報の共有は必要。 ・担任と関係を築くことが重要。	☆伊達小「4つのあ」を基に、全校で統一した指導の徹底を図り、基本的生活習慣の定着を図る。 ☆率先垂範・凡事徹底の姿を教師自らが示していく。
			基本的生活習慣の定着を図る取組が推進されていたか。	(学)69.4 ▼ (保)79.7 ▼				
			いじめや不登校等の情報収集に努め、適切な指導が図られる体制が機能していたか。	(学)94.4 ○ (保)83.7 ▼				
信頼される学校	「学校経営方針」 ○生きる力をはぐむ学校づくり ○信頼され、安心感を与える学校づくり	「のいえる子どもの育成」	保護者や地域社会との連携が円滑に行われ、学校の教育活動にプラスの効果をもたらしていたか。	(学)83.3 ▼ (保)85.7 ○	□知・徳・体をバランスよく育てる教育活動については、「德育」面の充実を求める声が保護者からあります。 □教師の資質向上について、教職員の意識を高めていく必要があります。「凡事徹底」を日常から心がけ、教師自ら範を示すことが求められます。 □保護者や地域との連携は、コミュニティスクールの取組を充実させながら、今後も大切にしていく必要があります。	・コミュニティ・スクールの充実のため、本校の取組を外に発信していく。小さな取組でも具体的に行動していくことが大切。	☆学校からの情報発信を積極的に行い、コミュニティ・スクールの取組を充実させる。 ☆保護者・地域から信頼される教師集団としての意識づくり	
			【運営面】 地域・家庭・学校が一体となった学びの環境づくり	(学)86.1 ○ (保) —				
			【指導面】 確かな学力・健やかな体・豊かな心をバランスよく育む学級経営	(学)77.8 ▼ (保)93.8 ○				
特別支援教育	障害や発達障害、学級の中で困り感をもっている子ども一人一人の教育的ニーズに寄り添った支援		①特別支援教育に関する全職員の共通理解 ②通常学級における特別支援教育の推進 ③保護者や関係機関との連携	特別支援教育についての研究を深め、その実践化に努められていたか。	(学)88.9 ○ (保)89.2 ○	□「通常の学級における特別支援教育」について、教職員の意識を高め、学級経営や授業に反映させることが今後も求められています。	☆特別支援教育に関する校内研修を充実させる。	

※評価規準 肯定評価が85%未満を「▼」、85%以上を「○」で表記しています。(学)⇒学校の自己評価 (保)⇒保護者評価

【其他のご意見】 ・登下校時に防犯の腕章をつけて見守り活動をする、事件・事故の抑止になるのではないか。